

くもベラボ

杉山 武志・石坂 将一・足立 陽菜・木村 芽生・新元 里奈・谷水 さら（人文地理学研究室）

キーワード：地域創生，地域コミュニティ，創造農村，丹波篠山市東部六地区協議会

1. くもベラボの経緯と概要

くもベラボは、活動開始から 8 年目を迎えた、人文地理学研究室（杉山ゼミ）の代表的プロジェクトの一つである。筆者の一人である杉山が創造都市／創造農村論を研究してきた経緯もあり、「ユネスコ創造都市ネットワーク」に登録されている丹波篠山市の東部地域（東部 6 地区＝日置，後川，雲部，福住，村雲，大芋）をフィールドに教育研究と実践活動を続けている。くもベラボの活動目的は、人口減少や高齢化が顕著になってきている地域コミュニティとそのなりわいを少しでも回復させていくために、地元の皆さんと一緒に学びあう「集い」を提供することにある。

くもベラボは、旧雲部小学校の校舎を利活用してコミュニティ経済の循環を高めようと試みる「合同会社里山工房くもべ」を中核的な連携先として、東部 6 地区全域にまで研究調査、実践活動のフィールドが広がっている。すなわち、くもベラボには、①雲部地区のこと、②丹波篠山市東部六地区全体のこと、双方のスケールでの取り組みが含まれている。②の活動は、里山工房くもべ内に事務局が置かれている「丹波篠山市東部六地区協議会」と連携して進めている。昨年の報告集で紹介した通り、2022 年度は主に東部六地区協議会の新たな挑戦を後押しする活動を展開した。

2. 丹波篠山市東部六地区協議会 戦略会議

ここで、東部六地区協議会を紹介しておきたい。東部六地区協議会は、6 地区の各まちづくり協議会を母体として 2017 年に設立された任意の広域的域域運営組織である。2021 年度までは基盤づくりとして、東部 6 地区という近隣コミュニティのつながりを再発見する活動に主眼が置かれてきた¹⁾。

他方で、協議会設立時の中心的メンバーの高齢化問題がコロナ禍も相まって顕在化していたこともあり、兵庫県丹波県民局からの支援も受けながら、2021 年度に次世代を担う 30 歳代～50 歳代が主

役の事業運営に転換させる準備が進められてきた。その結果として、協議会内に新たに誕生したのが「戦略会議」と名称づけられた若手中心のプロジェクトである。本研究室からも、本稿の筆者の一人で、経済地理学を専攻する石坂将一（本学客員研究員）が戦略会議の委員として参加している。

2022 年 3 月に設置された戦略会議は、協議会本体が築き上げたつながりを基盤に、東部六地区活性化の一端を担い始めている。なかでも 2022 年 4 月 1 日に旧篠山町地域が過疎地域（一部過疎）に指定されたことを受けて同年 9 月に策定された「丹波篠山市過疎地域持続的発展計画」に関しては、丹波篠山市と東部六地区協議会との協働的な活動も展開された。

なかでも 2022 年 7 月に東部六地区協議会主催で開催された「丹波篠山市東部六地区活性化シンポジウム——過疎地域からの提言：過疎地域がめざす活性化の地域づくりとは——」では、地域住民、政治家、行政職員など 100 名近くの人たちが村雲地区に立地するハートピアセンターに集い、今後の活性化策について議論を交わした。このシンポジウムも契機となり、東部六地区の活性化拠点の整備・運営、コミュニティ経済を動かすマルシェ、交通弱者対応、情報発信対策など、過疎地域指定を「卒業」する方策が戦略会議において検討されている。



写真1 東部六地区活性化シンポジウムの基調講演。登壇者は本学部の三宅康成教授（農村計画学）

3. 「篠山暮人」を通じた東部六地区の魅力発信

さて、上述の東部六地区の活動を側面支援する活動を、くもベラボの学生チーム（足立・木村・新元・谷水）が手がけてきた。なかでも今年度は、東部六地区協議会が運営するホームページ「篠山暮人（ささやまくらうど）」のコンテンツ「この人にきてみた」の取材、原稿執筆に注力した。



写真2 「篠山暮人」ホームページ
出所：丹波篠山市東部六地区協議会提供

2022年度に執筆した記事は6本である。掲載順に、①雲部地区「里山工房くもべ」でお菓子をメインに調理担当をしている店員さん、②大芋地区に民宿を営む「うめたんFUJI」のオーナーさん、③雲部地区「里山工房くもべ」の2年生教室でハンドメイド作品を手がける「K's GARDEN」のオーナーさん、④東部六地区戦略会議座長を務める丹波篠山観光協会の職員さん、⑤福住地区の旧福住小学校の閉校後の跡地活用に挑む「NPO 法人 SHUKUBA」の理事長さんと理事さん、⑥後川地区の旧後川小学校の跡地活用の一環として月1回ほどのペース



写真3 「篠山暮人」取材の様子
出所：丹波篠山市東部六地区協議会提供



写真4 「篠山暮人」の取材時に
出所：環境人間学部人文地理学研究室ホームページ

でカフェを営業する「かていか・くらぶ」の仲良しママさんたちの記事となっている。

東部六地区協議会戦略会議に参加するキーパーソンが抱く地域への想いや今後の展望、各地区のコミュニティづくりを担う人たちの魅力あふれる現実の声を紡ぎ出すことは、情報発信という実践活動だけにとどまらず、人文地理学や地域コミュニティ論を志すゼミ生たちの大事な研究の作法を修得する機会となっている。そうした活動の機会を提供くださっている、里山工房くもべ及び丹波篠山市東部六地区協議会の皆さんに、改めてこの場を借りて感謝したい。

4. 次年度に向けて

くもベラボの様子を『EHC 活動・研究報告集』で報告するようになって彼此6年(6回目)となった。これまでの年次報告を読み返してみたが、山あり谷あり、色々な思い出が走馬灯のようによみがえった。特にコロナ禍において「ローカルなフィールド系プロジェクトも限界か!？」と挫けそうになっただけに、くもベラボとして支援を続けてきた東部六地区協議会の躍進には喜びも一塩であった。

次年度は、くもベラボとして9年目の活動に入る。人文地理学らしい泥臭さを忘れず、面壁九年といえる成果が得られるよう、引き続き愚直な地域連携活動を東部六地区の地で継続していきたい。

引用文献

- 1) 三宅康成編著、太田尚孝・杉山武志・北村胡桃(2022)：『兵庫から地方の新しい未来を探る一地域を創生する8つの挑戦ー』神戸新聞総合出版センター。